

令和 5 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長 宮下友美恵

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

- 1 幼児期の発達段階に即した教育環境を整え、子どもたちの自発的な活動をもとにして、生き生きとした意欲的な子どもを育てる。
- 2 楽しく豊かな生活経験を通して、個性に応じたそれぞれの能力の芽生えを伸ばし、健康的で明るい子どもを育てる。
- 3 様々な表現活動を通して、豊かな心と創造性の芽生えを育てる。

2 本年度の重点目標

- ・豊かな体験を通して、子どもの資質・能力を育む
- ・子どもの育ちや学びをつなぐための家庭や小学校、地域との連携
- ・満3歳児保育の充実

3 評価項目に対する自己評価及び学校関係者評価結果

評価項目	自 己 評 価			学 校 関 係 者 評 価	
	評価	取 組 状 況	取組による成果	評価	意 見
豊かな体験を通して、子どもの資質・能力を育むための環境構成や援助	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の目的をもって、やりたいことにじっくり取り組めるような環境を整え、子どもの気づきや発見を認めながら一人一人に応じた援助を心がけた。 ・6月には、豊かな体験を通して、子どもの資質・能力を育むということを意識しながら、静岡県私立幼稚園振興協会の初任者研修会のために保育を公開した。 ・出会い・発見・創造展では、子ども同士で話し合い試行錯誤しながら遊びを進めるプロセスを大切にし、その中でどのような力が育っているのかということを教師間で話し合い、次の日のねらいや環境構成に活かすようにした。また、出会い・発見・創造展ニュースやしおりを通して、子どもたちの育ちを保護者に伝えた。今年度は新たな試みとして年長児の取り組みを動画にまとめ、出会い・発見・創造展で上映した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修会のための公開保育をするにあたり、教職員間でその時期に大切にしたい経験を共有し子どもの育ちについて話し合いながら、環境構成を工夫することで、遊びが充実した。 初任者や講師の先生の感想・意見を聞くことで、自分たちの環境構成や援助の良さや課題を再確認することができた。 ・出会い・発見・創造展の動画作成の取り組みによって、子どもたちがプロセスの中で経験したことや学んで成長したところを保護者に伝えることができた。また、動画を作成する過程では、教師自身が保育を振り返ったり、一人一人の子どもの資質・能力の育ちを捉えたりするよい機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を見させてもらう中で、1学期は先生との一对一の関わりが多い子どもたちが、2学期、3学期と経験を積むことによって、より子どもたちの表現が豊かになっていく姿に驚かされる。子どもたちが自分で自由に選択できる環境があり、それが子どもの資質・能力の育成に良い影響を与えていると感じる。 ・出会い・発見・創造展の動画は、子どもたちの経験や育ちがよくわかり、とてもよかった。 ・先生たちが園をオープンにして、公開保育時の初任者の意見をきこうとしていることが評価できる。 ・音楽発表会に参加したが、全園児で「はばたけ豊田」を演奏することには、とても意味があると思う。 ・親子で歩いて登園したり、先生や友達と一緒に集団降園したりすることも、豊かな体験の一つだと思う。
子どもの育ちや学びをつなぐ幼小接続と地域との関係施設との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続の取り組みとして、小学校の授業参観に幼稚園の教師が参加したり、園の保育を複数回公開し、小学校の教師に参観していただいたりし、放課後に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに、幼稚園と小学校の教師間で意見交換をした。意見交換の場では、園での遊びの中で子どもたちがどのような学びをしているかについても、伝えていくようにした。 ・幼稚園と小学校の合同研修会に本園の教師が参加し、幼児教育と小学校教育の架け橋プログラムについての講演を聞いたり、近隣の小学校の教師とのグループ討議で意見を交わした。 ・園長が地域の小中一貫教育の会議に委員として参加し各学校や地域との連携について協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業を参観することで、幼児教育において大切にすべきことや留意すべきことに気づくことができ、それらを保育の中で活かすことができた。また公開保育をしたことで、小学校の先生方にも幼児期の子どもたちの育ちや遊びを通した学びについて、伝えることができた。 ・小学校とカリキュラムまで踏み込んで協議することはできなかった。今後は小学校のスタートカリキュラムについて意見交換をしたり、子どもたちの学びをつなぐための教育課程を検討したりしていきたい。 ・子どもによっては、療育施設での姿と幼稚園での姿にかなりの違 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは興味をもてば、すぐに覚えるようになる。 小学校教育の前倒しのようなことを幼稚園でするのではなく、遊びの中で、子どもたちが探求していくことを大切にしている豊田幼稚園の教育はとても良いと思う。 ・園外保育に同行したことがあるが、電車のなかでの子どもたちの姿がとても立派だった。公共の場でのふるまいも学びの一つだと思う。このような育ちを小学校でもしっかりと伸ばしてほしい。 ・療育機関が作成する支援計画と園の目標とで、ずれが生じるといったケースがあるときく。それぞれの役割をどう位置付けるかが難しい課題である。

		<ul style="list-style-type: none"> ・本園の園児が通う療育施設の職員が園を訪問し、園のなかでの子どもの姿を観察した後、幼稚園の担任と意見交換をする機会を定期的にもった。 	<p>いが見られることがわかった。意見交換することで、それぞれの場での支援の仕方について学ぶことができた。</p>		
家庭教育と幼稚園教育との接続を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の親子が気軽に幼稚園で遊んだり、相談したりできるような場として「ふれあい子育てひろば」を定期的で開催した。また、「びよびよルーム」、「プレイルーム」などに通う親子に対しては、一人一人の子どもに応じたかかわり方について、よりきめ細やかに保護者に伝えたり、子育ての相談にのったりした。 ・満3歳児入園を希望している親子については、集団生活に入ることにに対する不安や疑問等、できるだけ保護者の気持ちに寄り添うような関わりをするとともに、子どもが安心して幼稚園で生活できるように、一人一人の発達状況や特性、その子に合った関わり方について、担任にも情報を共有するように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい子育てひろば」に参加した親子から、安心してゆったりと過ごすことができた、幼稚園児と触れ合うことで、自分の子どものこれからの成長がイメージできた等の感想が寄せられた。丁寧に一人一人の相談にのることで、食事や排泄、アレルギー、発達等の様々なことについて保護者と情報を共有することができ、幼児教育に携わるものとして助言をすることができた。そのことによって、スムーズに幼稚園生活をスタートする幼児も多かった。 ・自分から園に足を運ぶことができないでいる保護者に対して、どのように声をかけていくかが課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、以前にも増して母親が孤立してしまうケースがある。園に遊びに行ってみようとする人に対しては、いろいろな働きかけができるが、園に来られない人に対しては、支援がとて難しい。そのような人へのアプローチの工夫に期待したい。 ・母親が明るくなると、子どもも変わる。誰かに話すことが大事なので、保護者が気楽に相談できる場を先生たちが作ってくれていることは、とても良いことだと思う。 ・最近では、父親の育児参加が進んでいるが、その一方で男性の育児に対するストレスが高まっているときく。これからは、母親だけでなく、父親に対する支援も考えていく必要があると思う。
満3歳児保育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児は年少児よりもさらに月齢差、個人差が大きいことから、一人一人に合ったかかわり方や保育内容を考えながら丁寧に保育することを心掛けた。 ・満3歳児を少人数の3クラス編成とし、入園時期によってクラス分けをするようにした。 ・一人一人がゆったりと生活できる環境を整え、園生活に慣れるまでは、身支度、排泄、食事等に保育者がじっくりとかかわり、繰り返しの中で子どもが自らやろうとする力を引き出していった。特に、満3歳児入園時に、おむつがとれていない子どもも多くいるため、きめ細やかな関わりを心掛けた。 ・異年齢がかかわりながら遊ぶ、朝の戸外遊びとは別に、満3歳児のみで園庭でゆっくりと遊ぶ時間を作るようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期によってクラスを3つに分けたことで、それぞれの子どもたちがふさわしい生活の流れやペースで過ごすことができた。 ・一方クラスが分かれていることで、連携をとることが難しい場面があった。 ・園の行事への参加は、満3歳児が無理のない範囲で参加するようにしたことで、発達に即した経験をすることができた。 ・異年齢での遊びでは、遊びのモデルがいることで、様々なことへ興味関心をもつことができた。それと並行して興味をもった遊びを、教師と一緒にじっくりと進める時間があつたことで、一人一人が安心して遊びを楽しむことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児で入園するときに、おむつがとれていない子どもが多いということには、大変驚いた。母親の意識が変わってきているのかもしれないが、園での満3歳児保育のあり方を検討し、充実させようとする園の努力を評価する。 ・公開保育での様子からも、年長児が満3歳児に対してとても優しく声をかけたり、手助けをしてあげたりする姿がみられた。このような異年齢のかかわりが、自然にみられる風土があることは、すばらしい。

評価（A…十分に成果があつた B…少し成果があつた C…成果がなかつた）

4 来年度取り組むべき課題

- ・子どもたちの成長を支える環境づくり～ごっこ遊びを通して～
- ・行事の見直しと指導計画の改善
- ・小学校と連携して架け橋期のカリキュラムを検討する

5 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。